

学校 教育 目標	「ひびきあう心 輝く笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」					
	(知) 進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組むようにします。 (徳) 豊かな関わりを通して、思いやりの心を持ち、自分も人も大切にできるようにします。 (体) 運動や体力づくりを通して、心身ともに健やかに生活するようにします。 (公) 進んで人とつながり、地域や社会の一員としての自覚をもつようにします。 (開) 様々な人との関わりを通して、多様な考えにふれ、共生する力を育むようにします。					
学校 概要	創立 64 周年	学校長 黒木 健	副校長 山田 克志	2 学期制	一般学級: 7	個別支援学級: 2
	児童生徒数: 202 人 主な関係校: 六角橋中学校 栗田谷中学校 松本中学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	六角橋中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	六角橋中学校 神橋小学校 中丸小学校 神大寺小学校	夢や希望、目標をもてる子どもを育成する ・「自分づくり教育」を教科横断的に実施 ・合同授業研究会を年に2回開催 ・人権教育推進協議会などの合同の研修会を実施 ・学家地連などの児童生徒指導に関わる事業の実施 ・児童生徒交流会などの小中連携授業を実施

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを大切に受け止めながら、「一人ひとりの子どもに配慮した学校づくり」を行っていきます。 ・いじめの未然防止、また一方で、いじめが生じても迅速に組織的対応が取れる校内体制の構築を図っていきます。 ・主体的に学習に取り組める子どもの育成を目指し、対話的で深い学びのできる授業づくりを行っていきます。 ・心身ともに健康な子どもの育成、また「道徳」の時間を活用しながら、他者を思いやることのできる豊かな心の育成を図ります。 ・学校運営協議会での議論を主軸としながら、保護者や学校地域に開かれた学校運営を行っていきます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①学習マークやデジタルタイマー、ミニ黒板などを活用し、ユニバーサルデザインの授業を行い、どの子どもも基礎・基本をしっかり定着できるようにする。タブレットなどのICT機器を活用して効率的に学習を進める。②資質能力を高めるための指導と評価の一体化を図りながら授業づくり、改善を行っていく。③重点研究では、「主体的に学習に取り組める子どもの育成」を研究主題とし、教職員全員で授業を見合い、授業の進め方を話し合い、研究し、授業に生かしていく。
担当 重点研究推進委員会	
徳 道徳教育	①学校や地域で、自ら進んで気持ちのよい挨拶ができるようにしていく。また、SSTの視点を取り入れた指導を積み重ねることで、思いやりの心を育み、自他を大切にしていこうとする態度を育て道徳的な判断力を養っていく。 ②年間を通した異学年交流を行い、ねらいを明確にした全校遠足など縦割り(ふれあいグループ)での活動を行うことによって実践意欲と態度などの道徳性を養っていく。
担当 道徳部	
体 健康教育	①体育朝会(ラジオ体操、ベース走など)や体育集会(大縄跳び)を実施し、運動を習慣化するきっかけとする。 ②体育部や体育委員会から、外遊びに関する呼びかけを行うとともに、養護教諭による保健指導、衛生指導などを併せて行い、心身ともに健やかな児童の育成を図る。 ③体育の安全面や技能面の職員研修を行い、指導者の安全への意識や授業力を高め、体育科学習で児童に還元していく。
担当 体育部	
公開 外国語教育	①外国語活動・外国語科では、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために学習と指導の充実を図る。さらに英語を通して、自己決定力・自己表現力の向上を目指す。②国際理解教室では日本とシンガポールの文化や習慣などの違いを学び、異文化理解を推進していく。③英語村では、AET・教師、異学年との交流を通し、様々な思いや考えをもった人々との関わりの中で多様性を尊重し、協働・共生の意識を育てていく。
担当 外国語部	
いじめへの対応	①いじめは重大な人権侵害という認識を学校全体で共有し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。②いじめ防止対策委員会を毎月、開催するとともに、児童会の取組や子ども会議との関連を図った有機的な取組を行う。③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを中心として、外部機関とも連携を図り、様々な角度や視点からいじめ防止に向けた取組につなげていく。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①キャリアステージにおける人材育成指標に応じた自主研修の推進や校外研修に参加しやすい環境を整える。また校内OJTやメンターチーム等の活動推進を通し、教職員一人ひとりの力量を高め、学び続ける教師を学校全体で育成していく。②ICTを効果的に活用しながら風通しのよい組織をつくり、協働的で機動力のあるチーム斎藤分小学校を構築していく。③ワークライフバランスを十分にとり、めりはりのある働き方ができるような意識を教職員全体が常にもつようにする。
担当 教務部	
特別支援教育	①一人ひとりの子どもの実態を把握し、少人数指導や特別支援教室の取り組みを活用し、個の特性に応じたきめ細やかな指導ができるようにする。②保護者の考えや思いに耳を傾けながら、学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、療育センターなどの関係機関と連携をし、支援の在り方を振り返り、改善するように努める。
担当 特別支援教育委員会	
児童指導・児童支援	①職員会議や打ち合わせでの状況共有だけではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながらケース会議などの場で子どもたちの状況を確認し、情報を共有するとともに、指導の方向性や外部機関との連携について協議するようにする。②斎藤分小学校スタンダードを基本に、どの教職員も同じスタンスで児童指導にあたるように共通理解をしていく。
担当 児童指導部	
地域連携 学校運営協議会	①地域の人的・物的資源を活かした単元づくりや学校環境整備を行い、神奈川大学や地域ケアプラザなど地域の各機関と連携し、教育活動に可能な範囲で参加して頂く機会を年間を通して教育課程の中に設定していく。②保護者・地域住民・地域学校協働活動推進委員等と連携・協働しながら、地域に開かれ・支えられ・信頼される学校づくりを目指していく。そのために、授業参観、交流給食の実施や、ホームページ等に学校の取組について年間を通して紹介するなど積極的な情報発信を行っていく。
担当 教務部	
信頼される 学校づくり	①学校便り、懇談会や学校説明会等において積極的な情報発信や安全な環境整備に努め、児童・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに、教職員一丸となって取り組む。②学校の実情に関してアカウントビリティを十分に果たしていくように常に留意する。③職員や保護者による学校評価や児童アンケートを通し、教育活動が児童の育成や変容にどう表れたのか、また保護者がどう受け止めたのか分析し、それを基にアクションプランを作成し、よりよい教育活動の推進に繋げていく。
担当 教務部	